

病害虫発生予察情報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

7月の病害虫発生予報

【予報の概要】

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | 発生時期 | 作物名 | 病害虫名 | 発生量 | 発生時期 | |
|---------|----------------|--------|----------|---------|------------|-----------|------|---|
| 水稲 | いもち病 (葉いもち) | 並 | やや早い | 野菜 | 白ねぎ | ネギアザミウマ | 多い | — |
| | いもち病 (穂いもち) | 並 | 早い | | | ネギハモグリバエ | 並 | — |
| | 紋枯病 | やや多い | — | | | シロイチモジヨトウ | 多い | — |
| | 稲こうじ病 | 少ない | 並 | 野菜全般 | ハスモンヨトウ | やや多い | — | |
| | 斑点米カメムシ類 | | | | アブラムシ類 | 並 | — | |
| | アカヒゲホソミドリカスミカメ | 多い | — | 果樹 | 果樹全般 | カメムシ類 | 多い | — |
| | アカスジカスミカメ | 多い | — | | りんご | 褐斑病 | 多い | — |
| | トゲシラホシカメムシ | 多い | — | | | 輪紋病 | 並 | — |
| | ニカメイガ (第2世代) | やや多い | やや早い | | | ハダニ類 | やや多い | — |
| | ツマグロヨコバイ | 多い | — | | | キンモンホソガ | 並 | — |
| | ヒメトビウンカ | 多い | — | | | カイガラムシ類 | 少ない | — |
| | セジロウンカ | 並~やや多い | 並 | | 日本なし | 黒星病 | 少ない | — |
| | イネアオムシ | 並 | — | | | 輪紋病 | 並 | — |
| イナゴ類 | やや多い | — | ナシヒメシンクイ | | | 多い | — | |
| 大豆 | 葉焼病 | 並 | やや早い | | ぶどう | ハダニ類 | やや多い | — |
| | ウコンノメイガ | 並 | 並 | カイガラムシ類 | | 少ない | — | |
| | ハスモンヨトウ | やや多い | — | かき (三社) | べと病 | 少ない | — | |
| | フタスジヒメハムシ | 並 | — | | フジコナカイガラムシ | 少ない | — | |
| | アブラムシ類 | 並 | — | もも | 灰星病 | 少ない | — | |
| | ハダニ類 | 並 | 並 | | せん孔細菌病 | 少ない | — | |
| | 野菜 | 白ねぎ | さび病 | 少ない | 花き | きく | 白さび病 | 並 |
| 黒斑病・葉枯病 | | | 並 | — | | | ハダニ類 | 並 |
| 軟腐病 | | | やや多い | — | 花き全般 | アブラムシ類 | 並 | — |
| | | | | | タバコガ類 | 多い | — | |

発生量

多い : 平年比 141%以上
 やや多い : 平年比 121%以上 140%以内
 並 : 平年比 80%以上 120%以内
 やや少ない : 平年比 60%以上 79%以内
 少ない : 平年比 59%以下

予報時期

早い : 平年値より 6 日以上早い
 やや早い : 平年値より 3 ~ 5 日早い
 並 : 平年値を中心として前後 2 日以内
 やや遅い : 平年値より 3 ~ 5 日遅い
 遅い : 平年値より 6 日以上遅い

予報の根拠中の

(+) : 発生量が多くなる要因、(±) : 平年並み発生要因、(-) : 少なくなる要因
 (早発) : 発生が早くなる要因、(並) : 平年並になる要因、(遅発) : 遅くなる要因 をそれぞれ示す。

I 水 稻

1 いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：やや早い



図1 いもち病り病葉

(2) 予報の根拠

- ・ 苗箱施用剤や種子塗沫剤の普及率が高く、近年の発生量は少ない傾向にある（－）
- ・ 6月20日調査において、初発は確認されなかった。（－）
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量、日射量はほぼ平年並と予想されている。（±）
- ・ 6月6日以降、好適条件日が複数日観測されている。（＋、早発）



BLASTAM
(随時更新)

(3) 防除対策

- ・ 本田内の補植用苗は、速やかに取り除き処分する。
- ・ BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）を参考に、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。なお、平年の初発確認日は7月9日である。
- ・ 防除指針：32～33 ページ参照

表 6月のBLASTAM判定結果

| 月日 | 朝日 | 魚津 | 上市 | 富山 | 八尾 | 伏木 | 氷見 | 砺波 | 南砺高宮 |
|-------|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 6月6日 | — | — | — | — | — | ● | ● | ● | ● |
| 6月7日 | — | — | — | — | ● | — | — | — | — |
| 6月8日 | — | — | — | — | 4 | — | — | — | — |
| 6月9日 | — | ● | — | ● | ● | ● | ● | ● | ● |
| 6月10日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月11日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月12日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月13日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月14日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月15日 | — | ● | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月16日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月17日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月18日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月19日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月20日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月21日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月22日 | — | — | ● | — | — | — | — | — | — |
| 6月23日 | ● | — | — | ● | ● | — | — | — | 4 |
| 6月24日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月25日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月26日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月27日 | ● | ● | 1 | 4 | ● | ● | ● | ● | ● |
| 6月28日 | — | — | 1 | — | ● | — | — | ● | ● |
| 6月29日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 6月30日 | — | — | — | — | — | — | — | — | — |

<発生指標>

- ：好適条件（湿潤時間中の平均気温が15～25℃であり、湿潤時間が十分で、当日を含めてその日以前5日間の日平均気温が20～25℃の範囲内）
- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が20℃未満）
- 2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、前5日間の平均気温が25℃以上）
- 3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上だが、湿潤時間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
- 4：準好適条件（湿潤時間が湿潤時間中の平均気温ごとに必要な時間数よりも短い）
- ：好適条件なし
- ？：判定不能

- ・ 感染好適条件が現れた日から7日間前後で葉いもちの初発生が予想されます。
- ・ 初発生後、極端な低温か高温がない限り、感染好適条件が現れた日から2週間ほどで病斑が目立つようになります。
- ・ その前後に次の感染好適条件が現れると2次感染が起こり、葉いもちが蔓延し始めます。

5 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の本田すくい取り虫数は1.4頭（平年0.6頭）、畦畔・雑草地のすくい取り虫数は6.5頭（平年3.2頭）でいずれも平年より多かった。（+）
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ 早生品種の幼穂形成期がかなり早くなっており、出穂期が早まると見込まれることから、畦畔等の草刈りは遅れず確実に実施し、防除計画の前倒しを検討する。
- ・ イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈り運動後も雑草の穂が出ないように除草対策を徹底する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・ 斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草対策を徹底する。
- ・ 早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を徹底する。例年、斑点米カメムシ類の発生が多い地域では、予め追加防除を検討する。
- ・ 防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
- ・ 近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので特に防除を徹底する。
- ・ 割割の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・ 防除指針：44、46～47ページ参照
- ・ 令和8年6月24日発表の病害虫防除技術情報第2号参照

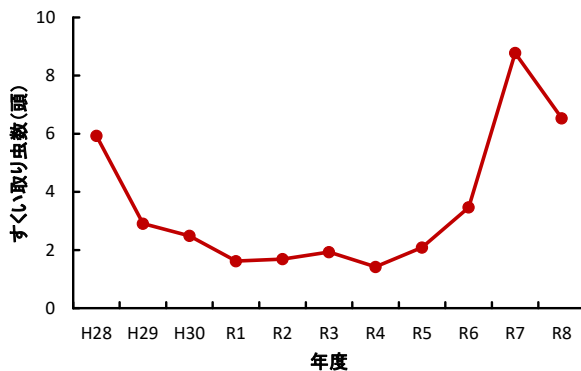


図5 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

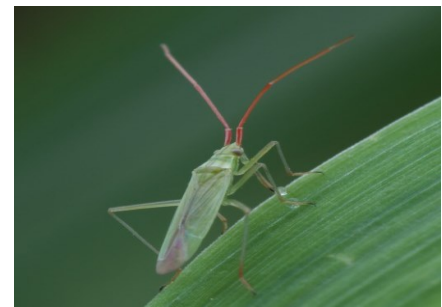


図6 アカヒゲホソミドリカスミカメの成虫

6 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の本田すくい取り虫数は0.9頭（平年0.2頭）、畦畔・雑草地のすくい取り虫数は7.9頭（平年4.6頭）でいずれも平年より多かった。（+）
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。

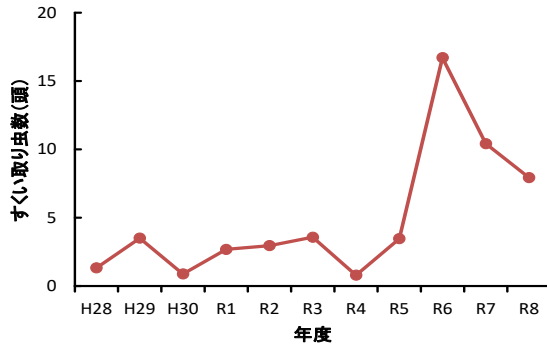


図7 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）



図8 アカスジカスミカメの成虫

7 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の本田すくい取り虫数は0.1頭で平年（0.0頭）より多く、畦畔・雑草地のすくい取り虫数は0.1頭で平年並（0.1頭）であった。（+）
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）

(3) 防除対策

- ・ アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準じる。
- ・ 防除指針：45～47ページ参照

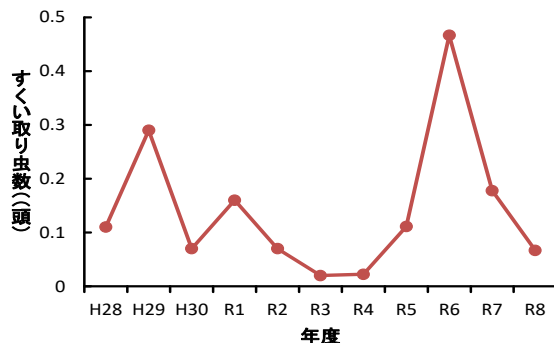


図9 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

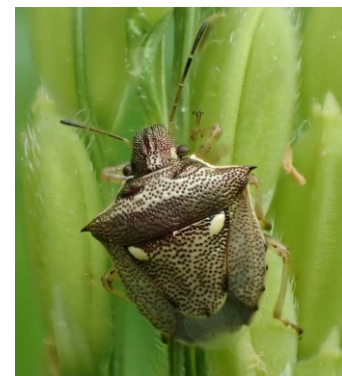


図10 トゲシラホシカメムシの成虫

8 ニカメイガ（第2世代）

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
発生時期：**やや早い**

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査の被害株率は1.0%で、平年(0.8%)よりやや高かった。(+)
- ・ フェロモントラップによる5月1半旬から6月4半旬までの第1回成虫の累計誘殺数は84頭で平年(115頭)よりやや少なかった。(－)
- ・ 第1回成虫の発蛾最盛期は5月15日で平年(5月29日)より早かった。(早発)
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：39～40 ページ参照

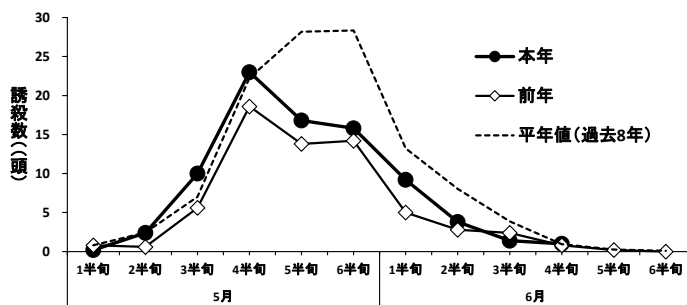


図11 フェロモントラップによるニカメイガの誘殺数の推移



図12 ニカメイチュウの幼虫(左)と心枯れ被害(右)

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は2.0頭で、平年(0.3頭)より多かった。(＋)
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：41 ページ参照



図13 ツマグロヨコバイの雌成虫(上)と雄成虫(下)

10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は1.6頭で、平年(0.7頭)より多かった。(＋)
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・ 防除指針：42 ページ参照

11 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並～**やや多い**
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月18日に呉西地域の予察灯において初発が確認された（平年初発日は6月18日）。（並）
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：42 ページ参照

12 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査のすくい取りでは確認されなかった。（-）
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：43 ページ参照

13 イナゴ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月20日調査のすくい取り虫数は1.5頭で、平年（1.0頭）より多かった。（+）
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：40 ページ参照

Ⅱ 大豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
- ・ 前年の発生量は少なかった。（-）
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+、早発）
- (3) 防除対策
- ・ 発生初期に薬剤防除を実施する。
 - ・ 防除指針：57 ページ参照



図 14 葉焼病の罹病葉

2 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている（±）



図15 ウコンノメイガの幼虫による葉巻き

- (3) 防除対策
- ・ 播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
 - ・ 7月6半旬における1本あたり平均葉巻数が6個以上確認された場合には、薬剤による防除を実施する（1ほ場あたり4か所・連続5～10本調査）。
 - ・ 防除指針：57～58 ページ参照

3 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる6月1半旬～4半旬の累計誘殺数は42頭で、平年（27頭）より多かった。（+）
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。（+）

- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：60 ページ参照

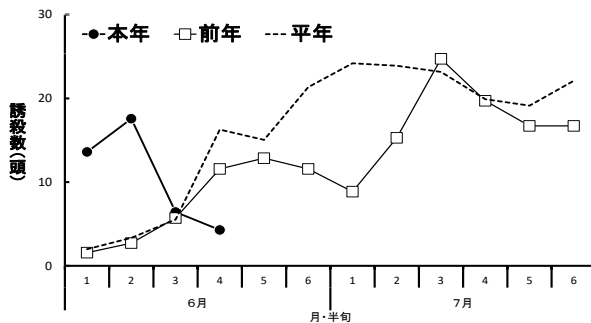


図16 フェロモントラップによるハスモンヨトウの誘殺数の推移



図17 ハスモンヨトウの幼虫

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 種子塗沫剤の普及が進んでいる。（-）
 - ・ 昨年の払い落とし虫数は多かった。（+）
 - ・ 6月25日調査の被害株率は0.0%で、平年（2.8%）より低かった。（-）



図18 フタスジヒメハムシの成虫

- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：59 ページ参照

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 種子塗沫剤の普及が進んでいる。(－)
 - ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.0%)並であった。(±)
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：58 ページ参照

6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年(0.2%)より低かった。(－)
 - ・ 7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・ 高温乾燥条件では短期間で増殖し、被害が多発する。ほ場でハダニ類の被害が確認され、高温乾燥条件が続くと予想された場合は、薬剤による防除を行う。
 - ・ 防除指針：57ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・ 6月25日調査の発病株率は4.0%で、平年(17.6%)より低かった。(－)
 - ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(－)
 - ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針：100～101 ページ参照



図 19 さび病の病徴
(夏孢子)

2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・ 6月25日調査の発病株率は0.0%で、平年(1.1%)より低かった(－)
 - ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
 - ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・ 気温が高く、降雨が多い場合に多発しやすい。発病初期から定期的に薬剤を散布する。
 - ・ 防除指針：101 ページ参照



図 20 黒斑病の病徴

3 白ねぎの軟腐病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の発病株率は0%で、平年並(0%)であった。(±)
- ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
- ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 高温・高湿条件や土寄せ時の傷が発生を助長する。排水対策を徹底するとともに、高温時の土寄せを避ける。土寄せ前や降雨前後に茎葉散布剤を散布する。
- ・ 防除指針：102 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の被害株率は50.4%で、平年(40.9%)よりやや多かった。(＋)
- ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
- ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・ 防除指針：103 ページ参照



図21 ネギアザミウマの被害葉

5 白ねぎのネギハモグリバエ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ 6月25日調査の被害株率は11.2%で、平年(16.4%)よりやや低かった。(－)
- ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
- ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ 土寄せ毎に粒剤を施用し、密度が低い状態を維持する。被害が多くみられる場合は、液剤等で随時防除を行う。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・ 防除指針：102 ページ参照

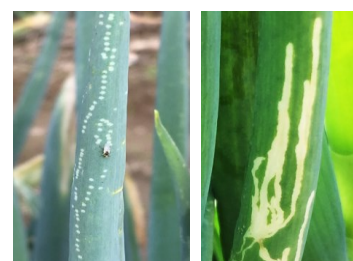


図22 ネギハモグリバエの産卵痕(左)と幼虫による被害(右)

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月6半旬～6月5半旬の累計誘殺数は、75.2頭で
平年(33.5頭)より多かった。(＋)

- ・7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)

- ・7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・ほ場を定期的に確認し早期防除に努める。中～老齢幼虫はネギの葉身内に侵入し、薬剤の効果が低くなるため、若齢幼虫期までに防除を実施する。
- ・薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで使用する。
- ・令和8年6月12日発表の病害虫発生予察注意報第2号、防除指針：103ページ参照



図 23 卵塊(左) 食害する若齢幼虫(中)と成虫(右)

7 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量：**やや多い**

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる6月1半旬～4半旬の誘殺数は42頭で、平年(27頭)より多かった。(±)

- ・7月26日にかけての気温は高く、降水量はほぼ平年並と予想されている。(＋)

(3) 防除対策

- ・防除指針：71～129ページのハスモンヨトウの項を参照

8 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：**並**

(2) 予報の根拠

- ・6月25日調査の各園芸作物での発生量は少なかった。(－)

- ・7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)

- ・7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・防除指針：71～134ページのアブラムシ類の項を参照

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の誘殺数は65.9頭で平年(17.0頭)より多かった。(+)
- ・7月26日にかけての気温は高いと予想されている。(+)



図24 チャバネアオカメムシの成虫(左)と卵(右)

(3) 防除対策

- ・令和8年5月21日発表の病害虫発生予察注意報第1号参照。
- ・防除指針：りんご 138～139、144、148～149 ページ、日本なし 151、156、160～161 ページ、ぶどう 163、167 ページ、かき 168、171～172 ページ、もも 174～176、178 ページ参照

2 りんごの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は多かった。(+)
- ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)



図25 褐斑病の初期病斑(左)と進行した病斑(右)

(3) 防除対策

- ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないように注意し、雨前防除を徹底する。
- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分確保する。
- ・防除指針：138～142、147ページ参照

3 りんごの輪紋病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。(±)
- ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
- ・防除指針：138～139、141～142、147 ページ参照

4 りんごのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は平年並である。(±)
- ・7月26日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)
- ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)

(3) 防除対策

- ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
- ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統の薬剤は年1回の使用とする（アカリタッチ乳剤は除く）。
- ・防除指針：138、144～146、148～149 ページ参照

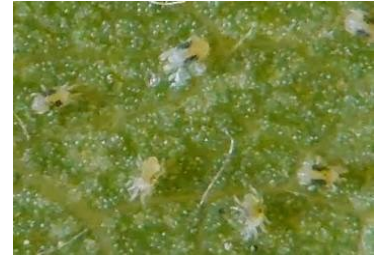


図 26 ナミハダニの成虫

5 りんごのキンモンホソガ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の累計誘殺数は3.9頭で平年(17.0頭)より少なかった。
(-)
- ・7月26日にかけての気温は高いと予想されている。
(+)

(3) 防除対策

- ・第2世代成虫発生盛期(平年：7月上旬)は重要防除時期なので適期防除に努める。
- ・防除指針：138、143～144、148 ページ参照



図 27 キンモンホソガによる被害葉

6 りんごのカイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

- ・現在の発生量は少ない。(一)

(3) 防除対策

- ・第2世代歩行幼虫発生盛期(平年：7月下旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：139、143～144、148～149 ページ参照

7 日本なしの黒星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・り病した果実や葉は見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：151～155、159 ページ参照



図 28 日本なしのり病幼果

8 日本なしの輪紋病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は平年並であった。(±)
 - ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・降雨などにより、薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・防除指針：151～155、159 ページ参照

9 日本なしのナシヒメシンクイ

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の累計誘殺数は13.9頭で平年(3.5頭)より多かった。(＋)
- (3) 防除対策
 - ・第2世代成虫発生盛期(平年：7月中旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：151、155～156、160～161 ページ参照

10 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は平年並である。(±)
 - ・7月26日にかけての気温は高いと予想されている。(＋)
 - ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・園地の草刈りを定期的に行い、下草での増殖の低減に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。
 - ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
 - ・殺ダニ剤は散布むらがあると効果が低下するので、丁寧に散布する。
 - ・殺ダニ剤は薬剤抵抗性が発達しやすいので、RACコードを参考に同一系統の薬剤は年1回の使用とする(アカリタッチ乳剤は除く)。
 - ・防除指針：152、157～158、160～161ページ参照

11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
- (3) 防除対策
 - ・第2世代歩行幼虫発生盛期(平年：7月下旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：152、155～156、160～161 ページ参照



図29 ナシマルカイガラムシ寄生枝

12 ぶどうのべと病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・7月19日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開かないよう注意し、雨前防除を徹底する。
 - ・り病した果房や葉などは見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：163～166ページ参照

13 かき(三社)のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の累計誘殺数は143.0頭で平年(893.7頭)より少なかった。(－)
- (3) 防除対策
 - ・第1世代歩行幼虫発生盛期(平年：7月上旬)は重要防除時期なので、適期防除に努める。
 - ・防除指針：168～169、171～172ページ参照



図30 フジコナカイガラムシの雌成虫

14 ももの灰星病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・前年の発生量は少なかった。(－)
 - ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・り病した果実は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：174、178ページ参照



図31 灰星病のり病果

15 もものせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
 - ・現在の発生量は少ない。(－)
 - ・7月26日にかけての降水量はほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・夏型枝病斑は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
 - ・防除指針：174～175、178ページ参照

V 花き

1 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・6月25日調査において発病は確認されなかった。(－)
 - ・7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(－)
 - ・7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・降雨により葉が濡れると感染リスクが高まるため、定期防除を行う際は降雨前にタイミングを逃さず行う。
 - ・防除指針：194～195 ページ参照

2 きくのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
 - ・6月25日調査の1葉虫数は0頭で平年(0.14頭)より低かった。(－)
 - ・7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。(＋)
 - ・7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。(±)
- (3) 防除対策
 - ・発生源となるほ場内やほ場周辺の雑草の除去に努める。
 - ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、園地の発生状況に注意し、発生がみられた際は早期防除に努める。また、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、作用機作の異なる剤をローテーションで散布する。
 - ・防除指針：198～199 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
- ・ 6月25日調査の1葉虫数は0.0頭で平年（0.0頭）並に低かった。（－）
 - ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。（＋）
 - ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：193～216ページのアブラムシ類の項を参照

4 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：多い
- (2) 予報の根拠
- ・ フェロモントラップによる5月6半旬～6月5半旬の累計誘殺数は、タバコガが4.7頭で平年並（4.0頭）、オオタバコガは11.7頭で平年（4.5頭）より多かった。（＋）
 - ・ 7月26日にかけての気温は、高いと予想されている。（＋）
 - ・ 7月26日にかけての降水量は、ほぼ平年並と予想されている。（±）
- (3) 防除対策
- ・ 防除指針：201～220ページのオオタバコガの項を参照

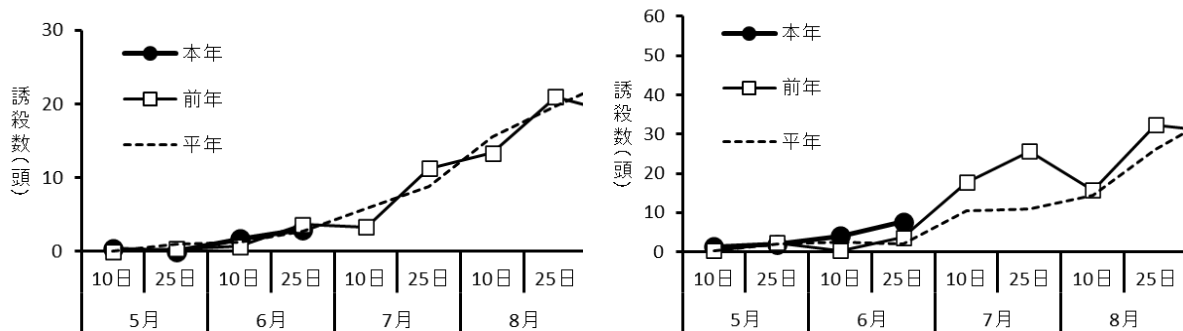


図32 フェロモントラップによるタバコガとオオタバコガの誘殺数の推移
(左図：タバコガ 右図：オオタバコガ)

令和8年度水田畦畔等の草刈り運動について

○斑点米や着色米の発生を防ぐため、カメムシ類や病原菌の発生場所である、畦畔や雑草地の草刈りを県下全域で徹底する

○運動期間 6月26日（金）～7月5日（日）

令和8年度農薬危害防止運動の実施について

○全国運動のテーマ：「使用前、周囲よく見て ラベル見て」

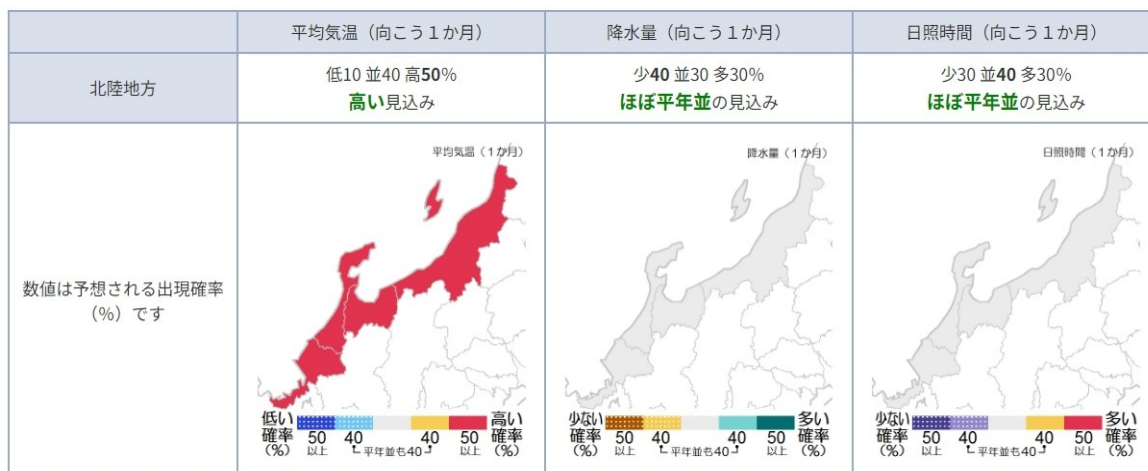
○富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月1日～9月30日」

北陸地方 1か月予報
（予報期間 6月27日～7月26日）

6月25日
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

- ・暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。
- ・平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。



富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-5249 FAX 076-429-7974

農業研究所 HP URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

